

# エコアクション21

# 環境経営レポート

(対象期間: 2019年4月1日～2020年3月31日)



2020年11月25日

東京特殊車体株式会社

## 目 次

1.	組織の概要 .....	1
2.	環境経営方針 .....	2
3.	環境活動の実施体制 .....	4
4.	過去3年間の環境負荷の状況 .....	5
5.	環境経営目標(中期3ヶ年計画).....	7
2017～2019年度		
6.	今年度の環境経営目標と実績、次年度の取り組み...	8
7.	環境関連法規等の遵守状況並びに違反、訴訟等 の有无.....	10
8.	代表者による評価および見直し.....	10

## 1. 組織の概要

1. 事業所名  
東京特殊車体株式会社
2. 代表者氏名  
代表取締役 西岡 偉久
3. 所在地  
〒192-0907 東京都八王子市長沼町 1304 番地の 1
4. 環境管理責任者  
取締役総務部長 中村 伸一  
連絡先：TEL: 042-644-3517 E-Mail : shinichi.nakamura@toutoku.co.jp
5. 事業の規模  
資本金 : 40,000 千円  
年商額 : 2,823 百万円(2019 年度実績)  
主要品生産量 : その他製造業 (特種車両の製造 : 89 両 (2019 年度実績))  
従業員数 : 65 名 (2020 .3.31 時点)  
延床面積 : 6,084 m<sup>2</sup>  
敷地面積 : 9,312 m<sup>2</sup>
6. 事業活動の内容  
各種特種車両の設計・製造販売・修理
7. その他  
設立年月日 : 1967 年 2 月 10 日

### 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名	: 東京特殊車体株式会社
関連事業所	: なし
登録対象外	: なし
活 動	: 各種特種車両の設計・製造販売・修理

## 2. 環境経営方針

# 環境経営方針

東京特殊車体株式会社は、「環境にやさしく」という京王グループ理念に基づき、環境保全に配慮し、環境負荷低減を目指した事業活動を行います。

1. 環境保全活動を推進するにあたり、技術的・経済的な事情を勘案のうえ、京王グループ環境基本方針に沿って、以下に掲げる環境負荷項目の低減に努めます。
  - (1) 二酸化炭素排出量の削減
  - (2) 廃棄物排出量の抑制と再利用の向上
  - (3) 節水の実践
  - (4) 化学物質使用量の削減
  - (5) グリーン調達の推進
2. 環境保全活動を継続して実施するため、具体的な環境経営目標・活動計画を策定して取り組みます。また、環境目標は定期的にあるいは必要に応じて適時見直しを行います。
3. 環境に関する法令、規制その他公的基準を遵守します。
4. 環境方針を全従業員に周知するとともに、環境に配慮した製品・サービスを提供することにより、全社一丸となって環境保全に貢献します。
5. 環境保全活動等については、環境経営レポートとして公表します。

制定 2020年 4月 1日

東京特殊車体株式会社  
代表取締役 西岡 偉久

## 《参考》系列グループの理念および環境基本方針

### 「京王グループ理念」

私たち京王グループは、  
つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、  
「信頼のトップブランド」になることを目指します。  
そして、幸せな暮らしの実現に向かって  
生活に溶け込むサービスの充実に日々チャレンジします。

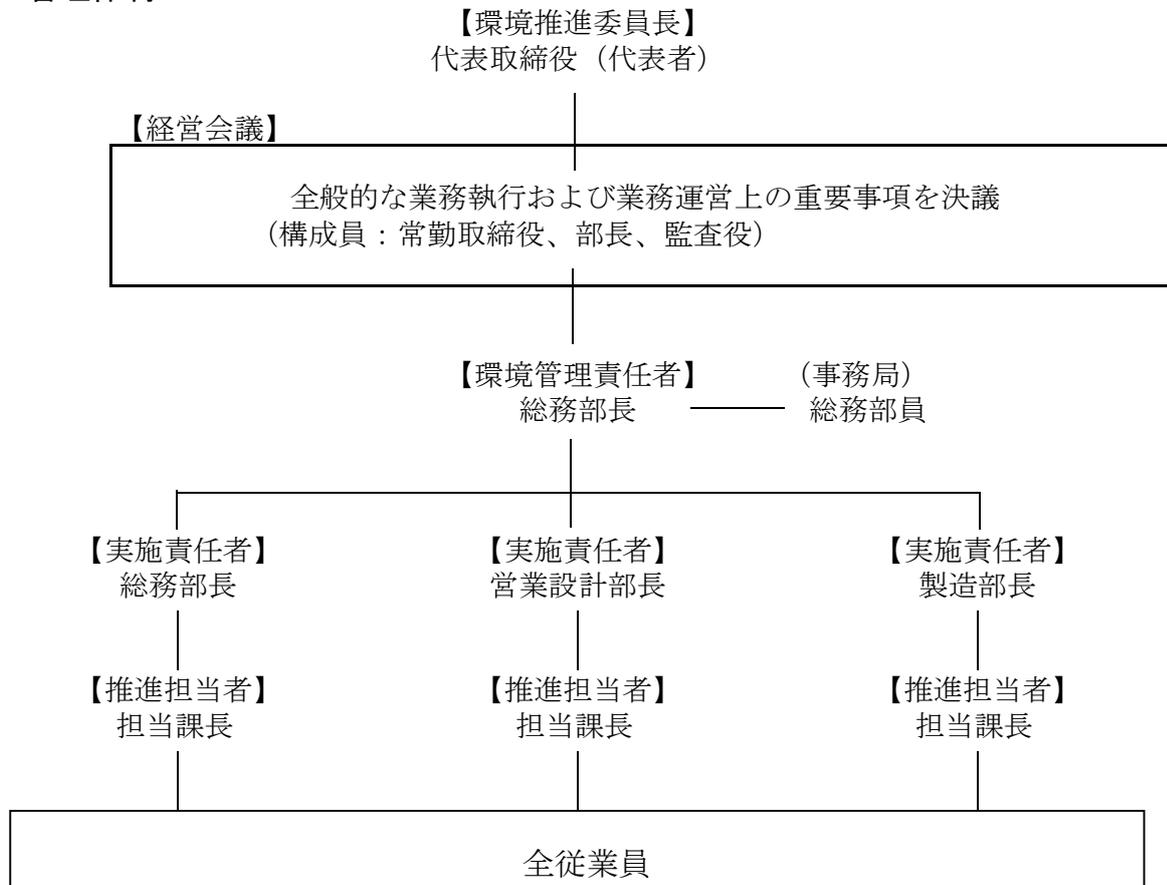
### 「京王グループ環境基本方針」

私たちは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づき、環境問題を地球規模で考え、持続的発展が可能な社会の実現を目指して、環境保全に配慮した事業活動を行います。

1. 地球温暖化防止のため、エネルギーの効率利用に努めます。
2. 循環型社会実現のため、廃棄物の削減、リサイクルおよび適正処理を図るとともに汚染の予防に努めます。
3. 環境に関する法令、条例、協定などを遵守します。
4. 地域社会との調和を目指し、騒音、振動の抑制ならびに緑化活動の推進に努めます。
5. より良い環境の実現に向けて、地域や社会の環境保全活動に積極的に参加します。
6. 従業員一人ひとりの環境意識向上を図るため、啓蒙・教育活動を実施します。
7. これら環境保全環境を推進するため、鉄道をはじめとするすべてのグループ会社の事業活動において環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善に取り組めます。

### 3. 東京特殊車体(株)環境管理体制及び役割

#### 1. 管理体制



#### 2. 役割分担

名称	役割・責任	
環境推進委員長 (代表者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境活動全般の推進</li> <li>環境管理責任者の任命</li> <li>環境活動の評価、見直し（毎年1回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営方針の作成</li> <li>経営資源の確保</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の構築、運用</li> <li>各種会議体の開催</li> <li>代表者への報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局運営</li> <li>取組み状況の確認と改善</li> <li>外部からの苦情の窓口</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境責任者、運営のサポート</li> <li>環境活動レポートの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種データの取得、記録</li> <li>啓蒙活動の推進</li> </ul>
実施責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部門の統括</li> <li>推進担当者のフォロー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動計画実施状況の監督</li> </ul>
推進担当者	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動計画の実務推進</li> <li>環境活動の実施状況の報告</li> <li>取組みに対する意見の集約、具申</li> </ul>	
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の理解、取組みの意義・重要性の自覚</li> <li>環境活動への参加、環境計画の実行</li> </ul>	

#### 4. 過去3年間の環境負荷の状況

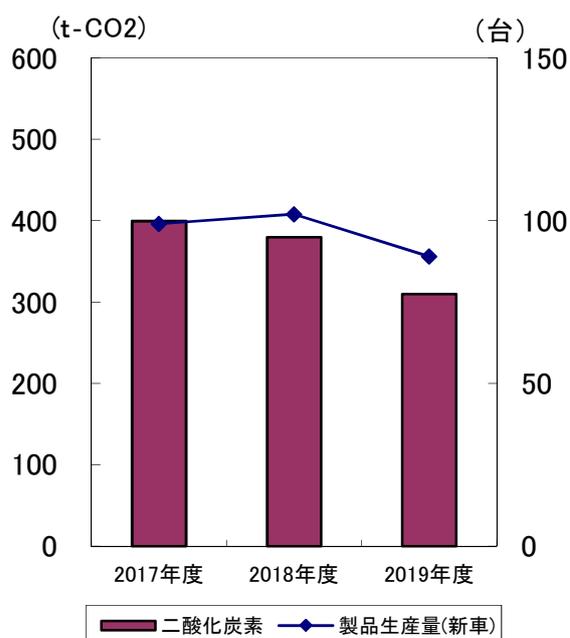
環境への負荷(指標及び種類)		単位	2017年度	2018年度	2019年度	
			2016.4-2017.3	2018.4-2019.3	2019.4-2020.3	
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	t-CO <sub>2</sub>	399.5	379.5	309.9	
② 廃棄物排出量	資源物	再生利用	t	126	94	76
		焼却処理	t	4	4	4
	産業廃棄物	中間処理	t	60	52	44
③-1 総排水量	下水道	m <sup>3</sup>	1,116	1,149	1,209	
③-2 水使用量	上水	m <sup>3</sup>	289	518	559	
	地下水	m <sup>3</sup>	1,004	766	789	
④ 化学物質使用量	PRTR	kg	2,497	2,938	1,838	
	都管理物質	kg	3,747	4,091	2,420	
	総排出量	kg	4,227	4,784	2,815	
⑤ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	5,869,309	5,333,461	4,995,837	
	化石燃料	MJ	2,947,597	2,847,914	1,992,986	
⑥ 物質使用量	資源使用量	t	291.3	300.0	269.5	
⑦ サイト内で循環的利用を行っている物質等	利用された物質	-	対象なし	対象なし	対象なし	
	水の利用量	-	対象なし	対象なし	対象なし	
⑧ 総製品生産量	製品生産量(新車)	台	99	102	89	

※CO<sub>2</sub>排出量の計算に使用した電気のCO<sub>2</sub>排出係数は

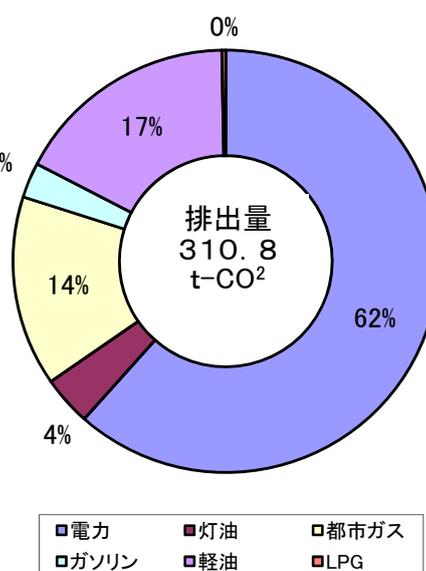
2014年度までは 0.377kg-CO<sub>2</sub>/kWh

2015年度からは 0.382kg-CO<sub>2</sub>/kWhで算出してます

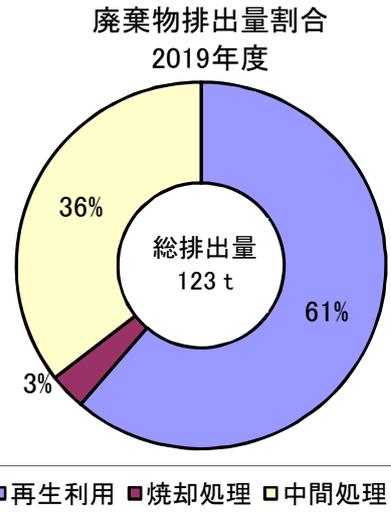
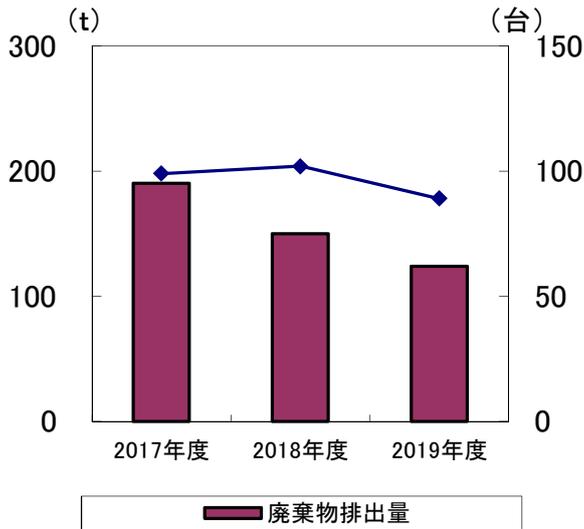
#### 二酸化炭素排出量と生産量



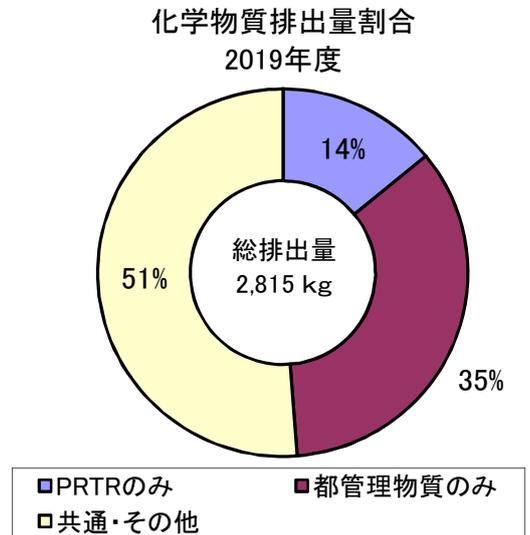
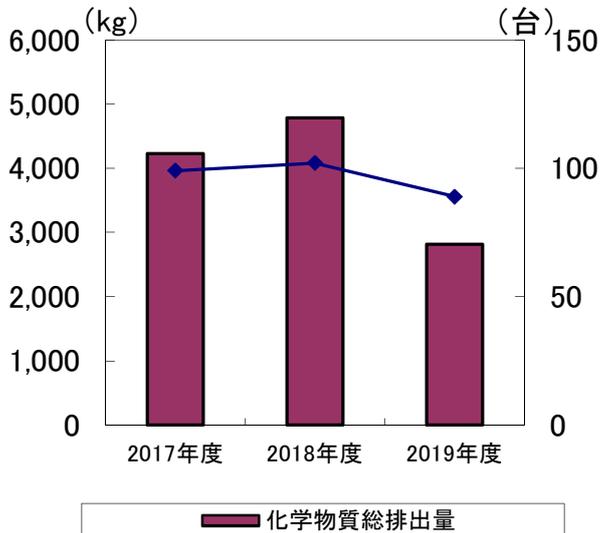
#### 二酸化炭素排出量割合 2019年度



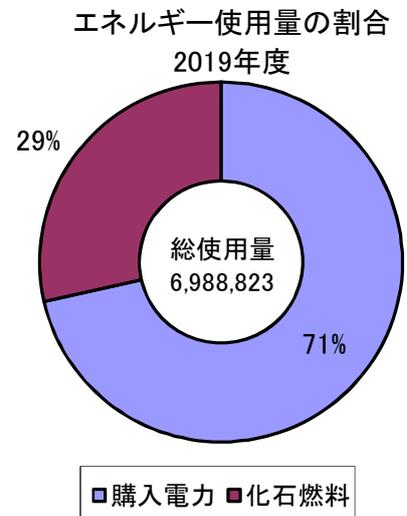
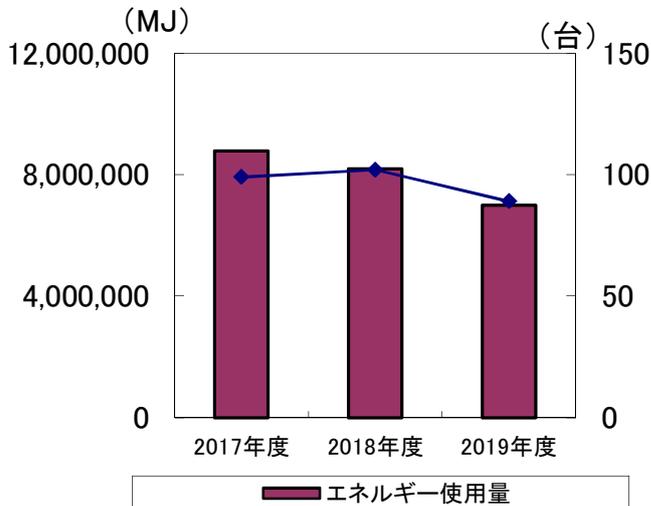
## 廃棄物排出量



## 化学物質使用量



## エネルギー使用量



## 5. 環境目標(中期3ヵ年計画) 2018年度～2020年度

環境中期目標の主要項目

2018年3月 制定

重点施策	目的	環境目標			
		2018年度	2019年度	2020年度	
1 環境負荷の削減	1.1 省エネルギー・省資源	CO <sub>2</sub> 排出量削減 ( t-CO <sub>2</sub> )	397.9	393.9	390.0
		使用電気量削減 ( kWh )	615,700	609,541	603,446
		都市ガス使用量削減 ( m <sup>3</sup> )	30,089	29,788	29,490
		灯油使用量削減 ( l )	8,134	8,052	7,972
		水使用量削減 ( m <sup>3</sup> )	1,184	1,172	1,160
		化学物質使用量の削減 ( kg )	4,479	4,434	4,390
	1.2 廃棄物削減	業務上発生する産業廃棄物排出量の削減 ( kg )	50,279	49,776	49,278
2 環境取組への取組の推進・向上	2.1 グリーン購入	環境を考慮した事業経営	事務用品 購入	事務用品 購入	事務用品 購入
	2.2 環境コミュニケーションの実施	業界団体の環境活動への参加	負荷物質フリー宣言の再確認	負荷物質フリー宣言の再確認	負荷物質フリー宣言の再確認
		地域住民との交流 外部情報の活用	工場公開継続 廃棄物業者訪問 展示会の見学	工場公開継続 廃棄物業者訪問 展示会の見学	廃棄物業者訪問 展示会の見学
2.3 その他	省エネ 廃棄物減量	本工場の環境管理 の新ルール決め	ルールの定着	使用電気量の維持	

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は0.382 kg-CO<sub>2</sub>/kWhです

※計画の基準年度は2017年度とし、削減率は年1%です

## 6. 今年度の環境経営目標(環境活動計画)と実績、次年度の取り組み

### 6.1 環境負荷の削減

分類	項目	環境目標 環境活動計画	2019年4月～2020年3月 (製造台数 89両)			今期の振り返りと次年度の取り組み	
			実績	対目標	評価		
環境負荷の削減	1.1 省エネルギー・省資源	CO <sub>2</sub> 排出量削減 (t-CO <sub>2</sub> )	393.9	309.9	79%	○	本工場の高天井照明の全数LED化が完了したこと、製造車両数が約1割減少していること、また全社で取り組んでいる効率的な働き方の取り組みの成果から、一段と電気の使用量が減少したものと考えている。 本年度工場天井の改修により明かり窓がなくなるなどの変化があるため、今後の傾向を注視する。
		使用電力量削減 (KWh)	609,541	501,087	82%	○	
		都市ガス使用量削減 (m <sup>3</sup> )	29,788	20,134	68%	○	繁忙期である冬季の気温が比較的温暖だったこと、製造車輛台数が約1割減少しているため、ガス使用機会が減少したと考えている。
		灯油使用量削減 (ℓ)	8,052	4,710	58%	○	主な使用目的が工場内での暖房用途であるため、暖冬が影響し、使用量が大きく減った。今後の傾向を注視する。
		水使用量削減 (m <sup>3</sup> )	1,172	1,348	115%	×	工場事務所が分離したこと、従業員用シャワー設置による使用量の傾向の変化と考えている。今後の傾向を注視する。
		化学物質使用量の削減 (kg)	4,434	2,815	63%	○	健康障害防止等のため、塗料およびシンナーの環境対応を一段と進めた結果、トルエンやキシレン類の使用量の低下がみられた。また、製造台数の減少も大きく影響している。
	1.2 廃棄物削減	業務上発生する廃棄物量の削減 (kg)	49,776	43,090	87%	○	削減の要因として、車輛製造台数の約1割減少、また基準年にはまだ行われていた本工場の耐震補強関連工事に関連する整理がひと段落したことが関係していると考えられる。 今後の傾向を注視する。

※電気のCO<sub>2</sub>排出係数は0.382Kg-CO<sub>2</sub>/kWhで計算しています

※軽油は弊社製品(特殊車両)の燃料タンクへの給油が使用量の大部分を占めるため、上表に記載がありません

6.2 環境への取り組み

分類	目的	環境目標 環境活動計画	2019年4月～2020年3月 (製造台数 89両)		今期の振り返りと次年度の取組み	
			取組結果	評価		
環境への取組	2.1 グリーン購入	事務用品の優先購入	・購入品の選別	統一カタログによる購入の継続	○	今後も継続する。
	2.2 顧客サービス	業界団体の環境活動への参加	・車工会環境フリー宣言活動	7月にフリー宣言を継続	○	環境経営への配慮を行う。
		地域住民との交流 情報提供	・定期的な工場周辺清掃活動を実施	毎月1および16日に、工場正門周辺清掃活動を実施している	○	周辺環境を良好に保つ活動を継続する。
	2.3 その他	省エネ・設備更新	・工場照明のLED化の推進 ・個別SW化の推進	高天井照明、本工場内通路用照明のLED化の効果が高かったため、作業灯など、他の蛍光灯のLED化を推進した。 また、より効果を高めるため、個別SWの場所別表示などを行った。	○	残る水銀灯照明のLED化を計画する。 また、照明の効率的な利用のため、個別SWの運用ルールの改善を推進していく。

## 7. 環境関連法規等の遵守状況並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規は、廃棄物処理、騒音・振動、化学物質・危険物、消防、及び車両・輸送関係であります。これらの法律及び条令に基づき適切に対応しており、違反はありません。また訴訟に関しては過去5年間ありません。

## 8. 代表者による評価と見直し

本年度は本工場の耐震工事に伴う省エネ化した設備の効果により、本工場の部分照明の推進などのルールに工夫をこらした結果、弊社にとって大きな課題である電気消費量の削減などに昨年以上の成果が見られました。

次年度は現在のルールを基に、新型コロナウイルスによる環境の変化などにも対応しながら、現状の改善活動を行っていきます。

また、化学物質については一昨年度から切り替えを実施した「環境に配慮した塗料」への切り替えに続き、そのほか溶剤等についても切り替えの検討を進めるなど、着実に改善の前進をおこなっています。

今後も弊社の全社改善活動である「ONE1019」活動を通じ、環境改善活動を一層進めてまいります。

---

修正履歴 2020年12月10日(木)

- ・P1 主要品生産量 98両(誤)を89両(正)に修正しました
- ・P2 環境経営方針 5項の「環境活動レポート」を「環境経営レポート」に修正しました
- ・P5 円グラフ年度標記の2018年度(誤)を2019年度に訂正しました
- ・P6 廃棄物排出量棒グラフが値を反映していなかったため、修正しました
- ・P7 基準年度についてわかりにくいため、注記を記載しました
- ・P8 業務上発生する廃棄物量の削減の数値を訂正しました
- ・P8 水使用量実績値および対目標割合を訂正しました
- ・P8 軽油の削減項目が無い理由を注記として掲載しました